

会 議 録

平成 30 年度 第 3 回コンソーシアム本会議

開催年月日・召集時刻 平成 30 年 3 月 16 日 午後 14 時 00 分

開催場所 和光市役所 4 階研修室

開 会 時 刻 午後 14 時 00 分

閉 会 時 刻 午後 15 時 00 分

出席委員

事務局

保健福祉部長	東内 京一
保健福祉部次長兼健康保険医療課長	大野 孝治
地域包括ケア課長	阿部 剛
健康保険医療課長補佐	渡部 剛
健康保険医療課副主幹	
兼保健センター所長	牧田 いづみ
地域包括ケア課管理栄養士	吉田 智子
健康保険医療課管理栄養士	佐藤 由紀子
健康保険医療課管理栄養士	石崎 奈菜

欠席委員

備考

【庶務】

発言者	会 議 内 容
<p data-bbox="193 208 261 241">司会</p> <p data-bbox="193 450 325 483">東内部長</p>	<p data-bbox="416 208 1406 338">それでは、ただ今より、食育推進コンソーシアム会議第3回会議を開会いたします。本日司会を務めます、保健センター牧田と申します。それでは次第に従いまして進行させていただきます。</p> <p data-bbox="416 349 1406 434">はじめに、保健福祉部部長より、ご挨拶をさせていただきます。東内部長、よろしくお願いいたします。</p> <p data-bbox="416 450 1406 768">皆様こんにちは。平成29年度最後の会議ということで、本日はご参加いただきまして、どうもありがとうございます。また、先般はイトーヨーカドーさんでの食育イベント等にご協力いただきまして、心から感謝申し上げます。私達当市としてももっともっと力を入れて、マスコミ等にも周知するなど努力が必要でしたが、少なくとも市民の方もしくは市議会議員の方からは一定度のインパクトがあったのではないかという評価を受けております。</p> <p data-bbox="416 779 1406 1821">今回、平成29年度から食育の推進ということを新たにスタートしました。その中で、第二次健康わこう21計画、それに包含された食育推進計画、自殺対策計画、また介護保険の長寿あんしんプランや、国民健康保険のデータヘルス計画、障害の地域福祉計画など、多くの計画の策定が行われていて、平成30年4月1日から動いていきます。大きな社会保障の改革の中で、食育といったところが、キーワードになっていくことがすごく多いです。今日、担当の方から今年度の実績と今後の方向性をお話しますが、前々から申上げている減塩・減糖・減脂といった部分については、特定健診が始まり、積極的支援や動機づけ支援が始まる、そこにまずは実施するプログラムとなります。今回のイトーヨーカドーさんやいなげやさんで行った取組、池田屋さんのだしなどがうまくメニュー化されて効果を生み出す、といったところを第一次的には進められたらと思っております。乳幼児の食事の関係、学校給食の関係等に朝食等を含め、どんどん食育を広げていきたいんですが、まずは1つ1つをこなしていくことで、結果がある計画の推進をしたいという風に考えております。何卒、ご協力をお願いいたします。是非厳しいご意見でも構いませんので、忌憚のないご発言をいただきたいと思えます。来る2025年、日本の特に和光市埼玉県南部というのは、いろんな意味で危機的な状況に陥ってまいります。その中で対応できる、少子高齢化の中でも明るい地域をつくるといったところを念頭に、今後のご協力のほどよろしくお願いいたしますご挨拶に代えさせていただきます。</p> <p data-bbox="416 1832 1406 1962">エーザイさんというところ、皆様わかりますか？国道254号線の和光陸橋の手前に和光リハビリテーション病院が本日オープンいたしました。</p> <p data-bbox="416 1973 1406 2011">そこは、脳梗塞や腎臓疾患、骨折した方々が2~3か月、埼玉病院</p>

	<p>や朝霞台中央病院などの急性期病院に入院後、在宅に帰るための回復期リハビリテーションです。そのような病院がこの地域にはなかった為、練馬区の「徳丸病院」に行っていたりしたのですが、これからは、地域にリハビリステーションができたことで、骨折であれば元気になっていくだろうと思います。また脳梗塞が医療費を上げており、個人のQOLも落としている、生活動作を妨げている、そして半分の方が2回目の脳梗塞を起こしているという状況があり、脳梗塞だったら麻痺が残ったりするケースもあったりするので、リハビリテーション病院で体の機能改善をして、在宅に帰って大事なものは食事支援なんですね。やはり服薬と食事がきちんとできてなかったら、いけないのです。私もライザップの責任統括とよく会う機会がありまして、あのコマースシャルの格好良いライザップでも、8割が食事、筋トレ2割で取り組んでいるそうです。それだけ食事という分野がいかに大事か、そのなかに特定健診に係る部分もあれば、地産地消の部分だとか、ということもでてきますので、そのようなことを念頭に少し追加でお話させていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>本日は、今年度実施事業の振り返りをした上で、次期食育推進計画とそれを踏まえた次年度の予定について協議を進めてまいります。</p> <p>はじめに、平成29年度の実施事業について、担当よりご報告申し上げます。</p>
事務局(佐藤)	<p>健康保険医療課の佐藤です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>こちらのスクリーンで説明させていただきます。今年度は、11月から開始しました市内スーパーでの減塩減糖の取組、それから1月の普及イベント、大きく2つの事業を実施していますので、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、11月からの取組について、イトーヨーカドー様においては、まず1つめとして、毎月19日、食育の日に合わせて、減塩・減糖レシピを2品200部ずつ用意し、食品売り場のクッキングサポートコーナーで、毎月試食・メニュー提案を実施していただいています。また、2つめとして、価格表示のところにこちらのわこう食育マークを設置し、インスタントや加工食品、調味料などについて、減塩・減糖の実践をサポートするような商品のPR、またそうした商品を取り揃えたコーナーの設置ということをやっていただいています。また、いなげや様でも同様の形で、バランスがとれたヘルシー弁当、塩分や糖質、脂肪分が低減されたヘルシー商品について、こちらのわこう食育マークを目印としたPRを実施しています。食育マーク設置については、まだまだ表示商品数が少ないですが、整備をしながら、今後も継</p>

続して実施していきたいと考えています。

次に、今年度実施した普及イベントについてご報告いたします。

今回のイベントは、「わこうが進める食育とは、こういうものです」ということを市民に知ってもらうことが目的であり、集客力のあるイトーヨーカドー様のスペースをお借りして、減塩減糖の大切さを伝えるということ、食事チェックや講座、メニュー提案を通じて行うという内容になっています。

イベント概要になりますが、すべてのライフステージに向けた減塩減糖の提案、食育の啓発を、1月20日土曜日、様々な年代が集まるイトーヨーカドー様の2階のスペースをお借りしまして実施しました。実施体制としては、こちらのコンソーシアム会議メンバーの中で、前回の第2回会議での提案を受けて、手を挙げてくださった企業団体に実行メンバーとなっていていただき、実行メンバー内で打合せを重ねて実施運営しました。今回の実行メンバーはこちらに記載のとおり、イトーヨーカドー様、農業後継者倶楽部様、池田物産様、ぽけっとステーション様、わこう暮らしのいきいきサービスプラザ様、子育て世代支援センター様の他、市の健康講座を受けたヘルスサポーターさんにご協力をいただきました。

開催評価としましては、今回は「わこう版食育の認知」を目的として実施したこと、イベント参加者数を1つの指標としました。減塩・減糖の共通のチラシを用意し、その配布数から来場者数をカウントした結果、イベント全体の参加数は517世帯となりました。

来場者アンケートの結果については記載のとおりで、こちらのスライドはイベント当日の様子になります。①②はヘルスサポーターさんが2階イベント会場へお客さまを誘導している様子です。③は1階食品売り場、クッキングサポートコーナーです。減塩でもおいしいことを実感してもらうため、池田物産様のだしを使った減塩レシピの試食提案を実施しました。④は、けんこう大使のわこうっちで、運営会議の中で挙げられたご提案を受けまして、わこうの食育のシンボルとして、着ぐるみを使用しています。「食育=けんこう大使のわこうっち」の印象付け、食育を認知してもらうため、農業後継者倶楽部の皆様がわこうっちさつきちゃん役となりご協力くださいました。⑤池田物産様では、塩分量の違いやおいしさを実感してもらうため、天然だしとだしパックの食べ比べや、ひき立て出しの試飲を行いました。⑥ぽけっとステーション様には、食から健康を考えてもらうため、減塩減糖のお話をさせていただきました。また⑦のいきいきサービスプラザ様では、食事カードを使って実際の塩分・カロリーの摂取量をチェックを行い、毎日の食事の振り返りと減塩減糖の意識付けということを実施させていただきました。特定保健指導の方、成人で希望のある方につい

	<p>では、⑧のように保健センターで身体・血圧の計測と個別の栄養相談を受け付けました。また、お子さんの相談については、⑨のような形で子育て世代包括支援センターで、計測と個別の相談を受け付けました。そして、先ほど写真で見ていただいた各団体の企画内容をまとめたのがこちらのスライドです。</p> <p>実施にあたっては、コンソーシアムの皆様をはじめ、こちらに記載の箇所にポスター・チラシ配布をお願いして、事前告知を行い、来場者へ配布した減塩減糖チラシがこちらになります。表面が、「わこの食育についての説明」、「食べ方チェックシート」、裏面が「おいしく健康に食べるコツ」という内容になっており、減塩バージョン、減糖・減脂バージョン 2 種類用意しセットで配布をしました。</p> <p>まとめになりますが、よかった点としては、「今回ファミリー層の来場が多く、30～40 代の若い世代の人、興味のない通りがかりの人にも減塩減糖の話ができた」という意見、また「イベントそのもの。公民協働が形として動き出したことがよかった」と意見もありました。参加者の声として、血圧の薬を飲んでいてコントロールがうまくいっていなかったヘルスサポーターさんからは「今回の内容を実践したら血圧が実際下がった」というよう感想も聞かれました。一方、改善が必要な点としては、「参加の団体数や来場者数が少ない」ということのほか、「食育=こども向けというのが一般的で、大人の方の興味関心は低い、またセルフコントロールできている方は少ないという印象があり、まだまだ周知が必要である」ということが挙げられます。</p> <p>最後に、今後実施したいこととして、今回参加した実行メンバーの皆様からは、「ターゲットを絞った事業の実施」、また今回のイベントのアフターフォローとして、「レシピの配信や減塩・減糖を実践に結びつけるアイテムやツールの作成」や「鍋合戦や市民まつりなどイベントへの参加」、「飲食店などとのコラボ」などの意見が挙げられました。実行メンバーの皆様からも挙げられたように、今回のイベントに限らず、コンソーシアム参加メンバー全員が、同じ目的をもって今後も減塩減糖の取組とPRを継続していきたいと考えています。</p> <p>本内容についてご意見、ご感想、ご質問等ございましたら、お受けしたいと思います。</p>
司会	
ぽけっとステーション	<p>ぽけっとステーションの山口さんお願いします。</p> <p>イトーヨーカドーさんにその後の反響はどうだったのでしょうか？</p>
イトーヨーカドー	<p>イトーヨーカドーの中野です。</p> <p>イベント自体に関しては時間が短かったかなという部分があったんですけども、その後も、1 階の食品コーナーのクッキングサポー</p>

	<p>トでの実際レシピの提案は引き続き実施しており、減塩減糖については月1回しかやっていないですが、ただ常設でやっているの、メニューを提案する人間は常時おります。その中の声として、あの時やっていた減塩減糖のメニューはどのような経緯でやったのかなど、減塩メニューを提案していない日でも、実際、減塩メニューを提案していない時よりもそういったお問い合わせは、たくさんというわけではないが出てきていて、少なからず関心は出てきているのかなというの、実感としてあります。メニュー提案を行っている者から声が上がってきているというのが、11月からはじめて、特にイベントをきっかけとして、声が大きくなってきたのかなというのがあります。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございます。参加してみてもの池田物産さん、いかがでしょうか。</p>
<p>池田物産</p>	<p>参加してみても、やはり興味はお持ちというか、意識はあるというか、これをいかに広げるかということになるんですが、私が実際に試飲していただいたのは、かつおぶし以外のお出汁と昆布だしをベースにしてかつお出汁、それから天然素材100%のかつおの粉末、市販の塩分の高いだしで、それを直接食べ比べしてもらいました。男性の年配の方でしたが、「無添加と書いてある出汁パックがしょっぱくて驚いた。」「気を使っていたつもりだったが、こんなに塩分の高いものを食べてたんだ」というご意見がございました。それで、やっぱりやっただけのかいはあるというか、地道な活動かと思うんですけど、アナログ的に対面でそういう体験をしていただくことは意味があると思います。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。ぼけっとステーションさん、参加団体としてご感想お願いします。</p>
<p>ぼけっとステーション</p>	<p>食育講座を4~5回講座を時間中にやれたと思うんですけど、実際に塩分どのくらいということをお話させていただいて、興味深く聞いていただけたかなと思います。お隣で出店されたの生き生きサービスプラザさんと一緒にコラボしたりとかいうことなど、ちょっとおもしろいかと思います。</p>
<p>司会</p>	<p>生き生きサービスプラザさんお願いします。</p>
<p>わこう暮らしの生き生きサービスプラザ</p>	<p>私の方は当日ちょっとイベントの方には、参加できなかったんですけども、参加した者から聞いているところでは、イベント自体すごくやることに意味があるだろうというところで、ただ結局せつかくやったのであれば、しっかりお客様に伝えたいかなというところがあったので、やっぱり集客のところをもう少し工夫した方がよいのかなということがあります。我々、高齢者のところをメインに活動をさせていただいている中で、やはりお家に帰って見直すツールというのが必要かなと思いました。その場で伝えるだけのやっぱり流れてしまうとい</p>

<p>司会</p> <p>ぼけっとステーション</p>	<p>うことが普段の我々の活動の中でもありますので、そういったツールをお持ち帰りいただく工夫とか、資料の中にもありましたけど、ツールを作るというの、工夫としては必要だったのかなと思います。ただ、こういう取組は続けていくことが重要だなと思っておりまして、何らかの形で、資料の中にもありますが、ターゲット絞るなりして続けていくということが重要ではないかなと感じております。</p> <p>ありがとうございました。他にご質問等ございますでしょうか。ぼけっとステーションの山口さんお願いします。</p>
<p>司会</p>	<p>集客というところで、わこうっちで農業後継者倶楽部さんが参加していたので、お子さんたちを連れてきていただけて、お子さんたちも流れてきたということがありました。農業後継者倶楽部さん達の方もお話を聞いてみたいです。</p> <p>農業後継者倶楽部さんは、本日代理の方にご参加いただいているので、改めて農業後継者の方にはご感想をお伺いしたいと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。また、今後も皆さんのご意見や今回の経験を踏まえて引き続き推進の方は進めていきたいと思っております。</p> <p>次に議事の第三次食育推進計画と次年度取組予定について、第二次健康わこう21計画とのつながりを含めて、事務局よりご説明申し上げます。</p>
<p>事務局 (松岡)</p>	<p>健康保険医療課の松岡と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>私の方からは、第二次健康わこう21計画と第三次和光市食育推進計画の概要につきましてご説明いたします。こちらのスクリーンで説明させていただきます。皆様のお手元にお配りいたしました資料2はスクリーンと同一の内容となっております。</p> <p>はじめに、計画策定の目的及び背景につきましてご説明します。</p> <p>「健康わこう21計画」は健康増進法に基づく「市町村健康増進計画」であり、市民の方々の生涯にわたる健康づくりを支援するため、平成20年に第一次計画が策定されました。</p> <p>今回第一次計画期間が平成29年度に終了することより、新たに第二次健康わこう21計画を策定していきます。また、計画策定にあたっては、「第三次食育推進計画」を、第二次健康わこう21計画の食生活分野の施策推進を担う実行計画として位置づけ、第二次健康わこう21計画と一体的に策定します。</p> <p>2Pをご覧ください。こちらは当市の計画連携図です。</p> <p>大元の計画として第四次総合振興計画があります。その各部門別の理念計画として、福祉、健康、医療の各計画と、さらにそれに紐づいた個別の実行計画がございます。健康わこう21計画に関しては、一部理念と実行の両方の機能を備えています。各領域別の理念計画と実行計画が青の点線で囲まれています。こちらは、例えば健康わこう21</p>

計画でいえば国保事業計画の医療費関係や、長寿あんしんプランのご高齢者の健康と深く関わるなど、それぞれの計画が連携・連動していますというのを示しております。公助・共助の計画をまとめたのが左側で、健康わこう21計画に関しては一部、自助・互助の機能を担っていますのでこちらの方にも記載しております。地域での自助・互助の活動を実行する機関として各圏域にコーディネーターを配置して展開していくことを想定しています。

3Pをご覧ください。こちらの図は、疾病別の通院医療費の動向を示したのですが、糖尿病、高血圧、腎不全、脂質異常症などの生活習慣病による医療費が通院医療費の上位を占めています。医療費を削減させるため、生活習慣病の予防は必然的に重要となってきます。

4Pをご覧ください。こちらの図は、疾病別の入院医療費の動向を示したもので、平成27,28年度ともに、統合失調症の医療費が高いのが国民健康保険の特徴となっています。罹患者が多くて入院期間が長いことにより、統合失調症の医療費を押し上げています。脳血管疾患、肺がんが28年度は急増しており、また、通院・入院ともに透析の医療費が占める割合が高いことがわかります。また、医療費が急増した脳梗塞について、その状況を見ると、下の図ですが、脳梗塞の患者数は、H24年度25人がH28年度37人と、5年間で約1.5倍増加傾向にあります。この平成28年度の37人のうち、17人、約半分の方が脳梗塞の発症歴があつて、今回脳梗塞の再発だったことが別データでわかっております。以上の観点より、脳梗塞の再発や糖尿病の重症化を予防する取組が必要です。

5Pをご覧ください。こちらは平成28年を現在値として、平成42年までの当市の人口推計を示した図です。この図の一番下の青色が未就学児、次の赤色が17歳まで、次の黄緑色、紫色が18～64歳の生産年齢人口で、上の水色が前期高齢者、一番上のオレンジ色が後期高齢者の人口を示しております。

日本全体は少子高齢化といわれる中で、当市は違う傾向を示しています。当市の人口は42年度にかけて人口が増加傾向であることがわかります。高齢者の数は伸びておりますが、高齢化率は横ばいとなっています。平成34年には後期高齢者数は前期後者数を上回り、後期高齢者の割合が高くなってまいります。一方0～17歳のこどもの数は横ばいから多少減少する程度です。そして、18～64歳の生産年齢人口は増加傾向であることが当市の特徴となっております。それぞれのライフステージ、世代に応じた健康増進のアプローチが重要です。

以上の現状と課題を踏まえました、本計画の理念と方針につきましては、6Pに記載してありますとおりです。1番につきましては、生活習慣病予防を重要視した疾病予防や重症化予防、2番は「セルフヘルス

ケアマネジメント」いわゆる自己健康管理の普及による食育と連動した生活習慣病予防の強化、3番は生活習慣病予防のために国民健康保険、通称国保加入の方へはアウトカムを明確にした事業を実施していく内容になっております。詳細については後程ご説明いたします。市民全体を対象とした健康づくり基本条例の機能を活用した健康増進を行っていきませんが、国保以外の方に関しては、新たに課題抽出及び課題解決のためのアプローチをしていくという内容になっていきます。以上4つの方針を地域の中に根付かせるというところで、東京オリンピックを契機に、当市で養成しておりますヘルスサポーターに地域の健康づくり推進の役割を担ってもらいますというのが5番です。

下の食育計画の方針の1,2番は健康わこうと同様な考え方で、3番に関しては健康度・ライフステージ別に施策を展開していきまると、そして、施策を食育コンソを立ち上げて地域の中で、公民協働で推進していきまるとというのが4番です。5番に関しては記載してまますとおりです。

7Pをご覧ください。先ほど、国保加入の方へはアウトカムを明確にした事業を実施していくとお話しをしましたが、どのように実施するかといいますと特定保健指導による生活習慣病予防になります。特定健診とは、国保加入者のうち40歳以上の方が対象で、健康な方もそうでない方も受けていただいてメタボのリスクを判定します。ここでメタボのリスクがある方に関しては生活習慣を見直すためのサポート、特定保健指導を受けていただきます。メタボのリスクというのは腹囲が85cm以上、血圧130以上、高血糖、脂質異常のことでして、リスクをたくさんもっている方はハイリスクの積極的支援、ローリスクの方へは動機付け支援を行っていきまるとというのが特定保健指導になります。こちらの1番目の目標は、健診対象者のうち現在42.5%となっておりますが、受診者を増やすことが重要なため、60%まで目指しますというものです。その対策としては、未受診者に対し新たにヘルスサポーターによる積極的勧奨を目的とした個別訪問を実施していきまます。こちら2番目の目標は、特定保健指導対象者のうち保健指導を最後まで受けた方の割合のことで、現在15.5%に留まっておりますが、こちら60%まで引き上げようというものです。対策としては対象者に対して専門職が積極的にアプローチし終了率の向上を図ります。3つめの目標として新たに改善率を設けます。特定保健指導の結果、現在の改善率は34.1%に留まっておりますが、特定保健指導終了者の少なくとも50%は改善していただくことを目指しますというものです。例えば、保健指導を最後まで受けた方のうち半分はウエストが85から80に減るとか、血圧がさがるとか、メタボのリスクが減少したというのが3番になります。改善率向上のた

めには画一的な情報提供型の指導から、当市で既に高齢者の分野で行われているような、個別ケアマネジメントの手法を用いた個別の健康課題を解決するケアプラン方式へ変更していきます。

8Pをご覧ください。こちらは年齢別の国保医療費を示した図でして、60歳から医療費が跳ね上がっていますが、病気の予防という視点で考えるとそれまでの生活習慣に由来するため、2025年問題に続く高年齢層向けの取組に加え、若年層や中年層からの健康増進が重要です。社保加入の方の健康課題は現在把握できていないため、当面は、20～64歳の現役世代を対象とした記名式の「ニーズ調査」を実施し、回収結果から地域課題・個人の健康課題を把握する一方、未回収の方の中にリスクの高い方がいると想定されるため、高齢者やこどもの担当で実施しているような、未回収の方へヘルスサポーターによる個別訪問を実施していきます。これにより、健診に来ていただきたい方に健診にきていただくことや、最初の方でご説明した入院費の脳梗塞、40歳代以降脳梗塞で入院する方が多いので、特に40歳からの疾病予防を強化していきます。その中で生活習慣改善の必要性が高く、勤務先等での保健指導が受けられない方に対し、ケアプランを作成し、専門職による保健指導を実施します。

9Pをご覧ください。医療費からみると疾病の再発予防などが大事ということになりますが、上段の循環器疾患の再発予防については、循環器疾患により入院歴があり、現在高血圧や脂質異常症などのリスクがある方、具体的な話でいきますと、H28年度の脳梗塞患者37人のうち17人、約半分は初めて脳梗塞を発症しているというデータがございます。その方が退院したときに来年、再来年、再入院しないように病院でのお薬などのケアだけでなく、地域での運動・栄養の個別ケアマネジメントをしていきますよということです。中段の糖尿病重症化予防については、まず、血糖コントロール状況が悪いなど糖尿病の重症化するリスクがあるにも関わらず、病院受診していない方については、健診で発見して、きちんと受診コーディネートを実施するというのと、あわせて医療機関に行っている中で糖尿病を悪化させないため、例えばインシュリン注射を始めましたが、状態がよくなるような方に、きちんとケアしないと透析になってしまうので、それを予防するために、病院でのケアと合わせて個別栄養マネジメントを実施しますよということです。ちなみに国保では糖尿病重症化予防という形で既に実施しておりまして、今後も引き続き実施していきます。今のお話はあくまで国保加入の方に対するアプローチであり、社保加入の方につきましては現状把握できていないので支援ができませんが、今後はニーズ調査を含めた健康課題の把握をし、効果的な施策についての手法を検討してまいります。以上保健、医療の側面からのま

事務局 (佐藤)	<p>とめでした。</p> <p>地域の側面につきましては10Pをご覧ください。地域における健康づくりの取組につきましては、最初にご説明いたしました、計画連携図の中の自助・互助の部分になるところのご説明をいたします。地域におけるセルフヘルスケアマネジメントを普及させるための人材であるヘルスサポーターの育成や活動支援のため、新たに入門講座を開催し、現在213名ご登録いただいているのを1000名まで増やしていくのが1点目、右側のわこう健康マイレージの実施も個人の健康管理を推進するため、自助の部分の推進になりますが、県がやってる事業に上乘せとして歩数のポイントの付与や横出しとして市の検診事業などへの参加へも市独自ポイントを付与して効果測定していきます。詳細は記載のとおりです。</p> <p>11Pをご覧ください。地域における健康づくりの推進として、食育コンソーシアムを基幹とした、地域事業者による健康支援事業の推進ですが、冒頭佐藤よりご説明しましたとおり、当市では地域での食環境の整備を開始したところです。こちらの図は縦軸にライフステージ、横軸に個人の健康度を取り、それぞれに対応した施策を示しています。乳幼児期・学童期は、わこう版ネウボラと連動した栄養支援、学校等における食育推進事業など、きちんとした食事をとれるような啓発を実施します。30歳以降青年期の後半からは健康維持だけでなく生活習慣病予防といった観点から、発症予防・重症化予防をしていきますので、栄養マネジメントが重要になってきます。個人のセルフヘルスケアだけでなく、地域の中でも身体に気をつけた食事がとれるような食環境の整備をしていきます。例えば、一人暮らしのサラリーマンですと外食が多くなりがちですが、外食でも減塩・減糖を踏まえた食事の提供を受けられるような取組を食育コンソを通じて行ってまいります。ご説明は以上となります、ありがとうございました</p> <p>それでは、引き続きこちらのスライドで、私の方からは食育推進計画の方向性と次年度の実施予定につきまして、ご説明をさせていただきます。先ほど、松岡からの説明がありましたとおり、今回の改定に伴いまして、食育推進計画は、健康づくりの食生活の分野を担うもの、健康に資する食育へと移行し、減塩・減糖・予防といったところに重点に実施していくこととなります。</p> <p>そうした中で、食生活という部分においては、このように年代ごとの現状と課題があります。</p> <p>学齢期においては、一人で食べる児童の方がバランスが悪い傾向がある、また少数ではあるが、週14回以上（給食以外）ほぼ外食を利用する、家庭では週1回もバランスよく食べられていない児童がいるという状況があります。また、青年期・壮年期では、バランスよい食</p>
----------	--

事ができていない、特に独居の方がそうした傾向があり、外食や惣菜の利用頻度も高い状況があります。さらに高齢期では、若い世代よりも減塩の意識は高いにもかかわらず、実際の食塩の摂取量は加齢につれて増加傾向があり、男性の独居世帯は外食や惣菜の利用頻度が高いという状況がございます。こうした現状を踏まえて、食育では、①ライフステージごとに個人の健康度の対策を行う、そして、②それを支える仕組みとして、この食育コンソを通じて地域の中でも健康に気をつけた食事がとれるような食環境づくりを支援して行くということになります。

13Pをご覧ください。こちらは、まず市が実施をしていく課題解決型の取組の実施予定になります。

乳幼児期・学童期には、先ほどもありましたが、普及啓発ということで、乳幼児健診や保育園・学校等を通じた、食教育、家庭支援というものを引き続き実行してまいります。また、後半では、栄養面でリスクがある児童のスクリーニング、支援の体制・実施方法についても検討も進めていきたいと思っております。青年期・壮年期については、生活習慣病予防の観点から、まず特定健診・特定保健指導といったところを重点的に実施していきます。国保の場合ですと、病院での個別健診と、保健センターでの集団健診がありますが、7月～12月の期間で健康診断を受けていただきまして、その健診が出てくる9月以降に特定保健指導ということでメタボの予備軍の方に対する個別支援がスタートします。保健指導の中で、オーダーメイドのプランを立てまして、改善に向けた支援を行っていくということになります。また、すでに病気を発症している方については、重症化予防という観点から、レセプトですとか健診結果に基づいて、まずは病院を受診してもらい、服薬と合わせた栄養マネジメントを入れていくということになり、こちらから特定健診開始以降、本格的に始動していきます。

次に、14Pをご覧ください。こちらは食育コンソを通じた公民協働の取組についての、次年度の実施予定になります。先ほどの課題解決型の取組を踏まえて、特定健診がスタートする7月、ここを1つ目途として、この食育コンソを通じた地域における食環境側の体制づくりの方も並行して進めていきたいと考えています。

まず、スーパーのイトーヨーカドー様、いなげや様の方では、今年度から、レシピの提案、それから食育マークでの推奨といったところを始めていただいているところですが、たとえば「加工品で〇%減塩されているもの」、「1食あたり〇g以上の野菜がとれる」といった基準をもう少し整備をしまして設置基準や表示の形式を見直した上でこちらからは改めて提示をしていきたいと思っておりますので、該当するよ

司会

うな商品のピックアップなどしていただきまして、個別支援でも活用できるような形に運用の整備をしてみたいと思います。また、年度後半の方では健康のリスクがない方、社会保険の方にもマークですとか、そうしたものを広めていくというところで、健康マイレージとの連動に向けた整備というところも考えております。

また、コンビニエンスストア・コミュニティストアさんや、駅前商店ひまわりさんの方では、食育マークについてはスーパーさんと同様な形で進めていく、それから新しい取組というところでは、食べ方・買い方プログラムの設置というところをスタートしていきたいと思っております。お惣菜をこのように組み合わせるとバランスよいですよ、というような例示のペーパーを作成していきますので、そちらを店頭で配布・掲示していただく、あるいは、黄色、赤、緑の帯棚から1点ずつ選ぶと、バランスがよくなりますよ、というようなことについて、可能な範囲でご協力いただきながら進めていきたいと考えています。それから、外食店につきましても、今はご参加いただいておりますが、今後ご参加に向けて進めていけたらと思っております。また、食文化・農業関係につきましても、食文化の関係でいいますと、例えば、健診の結果説明会のところで、健診を受けた方に健康をからめた出しのお話をさせていただき、また、離乳食の教室を通じて若いお母さんたちにも、簡単な出しのとり方を伝えていくというようなこと、それから農業の関係でいいますと、野菜はカリウムと食物繊維が豊富というところで、栄養面での減塩減糖につながるというメリットがありますし、また、さらに和光で新鮮なものであれば少ない調味料でもおいしく食べられるといったところから、軽トラ市や木曜市といった販売の機会ですとか、あるいは収穫祭などイベントの中でもたくさん野菜を食べてもらえるようなレシピを配布するなど、地産地消と健康づくりを一緒に進めていくというところをお願いしたいと考えています。そして、市や相談支援機関の方では、こうしたプログラムを利用者の方へ案内していく、また、減塩・減糖の講座や教室を開催するといったところと、個別支援が必要な方についてはオーダーメイドのプランの中にこのプログラム等を活用していくというところを進めていき、広報、市のHPはもちろんですけれども、様々な媒体を使いながら地域全体でこの取組を広めていくということを実施していきたいと思っております。実施にあたっては皆様からも様々な意見をいただきながら協議し、進めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思っております。以上になります。

今、担当の方から、第二次健康わこう21計画全体の説明をして、その中にある第三次和光市食育推進計画の概要と30年度食育推進コンソーシアム会議を含めて実施の予定をご説明させていただきますし

<p>事務局 (阿部課長)</p>	<p>た。少し長い説明になりましたが内容について、ご意見やご質問がありましたら、お伺いしたいと思います。挙手をお願いします。</p> <p>冒頭の部長の挨拶にもあったように、計画に基づいて減塩・減糖・減脂をこれから進めていくといったの中で、食育コンソーシアムの活動と市の計画に基づく活動をうまくつなげていくといったところが前段、冒頭のところで部長の方の挨拶でもあったかと思えます。お手元の資料だと上段、下段とに分かれていたと思えますが、13P課題解決型の取組といったところが、先程の説明にありましたように、健診であるとか、そういったところの中から課題のある人を見つけていくというのがその活動になるのかなというところですね。その中で課題がある人が見つかった時に、その課題をどういう方向で解決していくかといったところの中に、14Pにあるような食育コンソーシアムの取組を、課題解決のためにうまく使っていただく、課題のある人達に使ってもらおうというところといかに連動させていくかってところを行政側は進めていかなければいけないと思っております。そうしたことを実際のコンソーシアムの皆様にも意識していただき、またご提案を色々いただく中で、特に民間事業者の方々であれば、うまくビジネスとしても成り立つような形というものを作っていきたいと考えておりますので、そのような点についても忌憚のないご提案ご意見を出していただければと思っております。以上、補足でした。</p>
<p>司会 ぼけっとステーション</p>	<p>ぼけっとステーション山口さんお願いします。</p> <p>今回、参加した人数、団体人数というのが少なかったのかなと思うので、これから、外食だったりとかコンビニだったりとか色々広くしていくのであれば、やっぱり参加する団体さんをもっと増やしたらいいのではないかなと思います。</p>
<p>事務局 (佐藤)</p>	<p>会議の要綱の方もとりまとめているので、そちらに基づいて改めて外食産業や新しい事業者にも声をかけてご協力をお願いしていきたいと思っております。</p>
<p>事務局 (阿部課長)</p>	<p>若干、補足させていただきますと、やはり先程ご意見あったように、もう少し参加する事業者さんが増えてくれればいいかなというのは、もちろんあると思います。ただ、その中で、やはり計画であるとか食育の趣旨をいかに普及していくか、そこにご理解とご賛同いただいたところの事業者さんにぜひどんどん参加していただく趣旨の啓発みたいなことは、我々もぜひ強化してやっていきたいと思っております。数が集まればというよりは趣旨にご賛同いただける事業者さんいかに集まっていたらいいか、そこからご提案をいただくかということが、この計画、またこの取組の肝だと思っておりますので、そういったところでの事業者さんを増やしていく取組をぜひ進めていきたいなと思っております。</p>

<p>中央包括 (川淵)</p>	<p>平成 30 年度の課題解決の取組がだいたいどのくらいの人数になるのかという予測の人数と、それを解決するにコンソーシアムを使うにあたって、前回の 1 月にイトーヨーカドーさんでやったようなことをどのくらいの頻度で啓発運動をして、参加メンバーにもわかっていただくというところを、7 月から個別支援のスタートがするのであれば、もっと早いその前からの準備が必要なのかなと思いますし、それに関して、どのように対策を立てているのかなとちょっと思いました。</p>
<p>事務局 (佐藤)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。コンソーシアムの取組としては 7 月スタートを目指して動きだしていきますけれども、保健指導の個別支援は 9 月から始まるといったところで、最低限 7 月には始めていく、その前の段階から準備を始めていくことで進めていきたいというふうに思っています。</p>
<p>事務局 (阿部課長)</p>	<p>例えば、実際に地域の中で、直接支援とかコーディネートとかしていただいている機関の皆様方のご意見もいただき、一番よい形を持っていかなきゃいけないと思うので、例えば、どんな形で活用するのがリスクや課題のある方に一番効果的なのかなど、皆様からのご意見を聞きながら、進めていきたいと思えます。7 月から始めていくのに、スタートの段階でどうやってやっていけばいいのだろうといった状態ではなかなか厳しいと思うので、その前の段階から、こういう運びでプログラムをやっていく、つまり、そこのスタートの時にもたつかないようにとのご趣旨だと思えますけれども、例えば実際に利用者さんや市民の皆さんに対して、こういう課題があったときに今こういうものがあつたら、こういう風に使えますよとご案内がうまくできるような形をうまく作っていかないと考えております。14 P の予定の所の予定のところでは始動調整って書いてありますけれども、要はスタートアップの調整では、事業者さんを含め皆さんのご意見をいただきながら、どういった形で展開していくのかという展開手法も含めて、調整していければというふうには思っています。</p>
<p>ぼけっとステーション 事務局 (佐藤)</p>	<p>先程、食育マークを増やす点について、食育マークをせっかく作ったのでこれを他の店舗さんにも広める方向とか、いつ頃から広めるとかというのはあるんですか。</p> <p>5 月に次年度第一回の会議という形で予定させていただいていますが、次年度新しく入ってくるメンバー、それから今のメンバーの中でも、セブンイレブンさんですとかひまわりさんですとかっていったところでも食育マークを活用していく、設置していくってことは始めていきたいと思えますので、そこについては 7 月までには始められるという形で調整をしてまいりたいと思えます。</p>

農業後継者倶楽部	<p>食育マークについてなんですけれど、後継者倶楽部も5月に緑化祭りがあり、お野菜が5月以降出てきまして直売所さんなんかでも販売をしておりますので、そこで食育マークのポップを使った広報活動に協力をしたいと思うのですが、この食育マークってどのように申請すればいいのですか。</p>
事務局	<p>先程、設置の基準ですとかそうしたところをもう少し精査をしていきたいと話をさせていただきましたが、和光市内の野菜というところもひとつ基準に入ってくるかなと思っています。そういったところを少しまとめました段階でお伝えさせていただきました、緑化祭りですとかそういったところでも活用していただけるような形にしていきたいと思います。基準がある程度固まりました段階で、皆さんにはこちらからご連絡をさせていただきながら進めていきたいと思っています。なお今、お話を頂きましたので、事前に後継者倶楽部さまの方には個別調整のような形でお話を伺いまして設置に向けた調整の方も進めさせていただきましたかなと思います。ありがとうございます。</p>
池田物産	<p>今年度イトーヨーカドーさんで行ったイベントと似たような感じで次回もやるのでしょうか？</p>
司会	<p>次回というのは？</p>
池田物産	<p>次にまだ催し物というかイベントをやる時には、例えば、またイトーヨーカドーさんで場所を借りてできたらお借りしてやるのか、それとも別の会場でやるのかっていうのかということです。それともう一点は、前回イベントを開催して各ブースっていうか各出展された参加されたところのブラッシュアップというか、そういうものが必要だと思うんですね。それで、アンケートで客観的な傾向のようなものはでているんですが、実際先日イベントを開催した時に事務局の中で一緒に参加されたのは、女性の方は見てたんですけども、男性の方とかはイベントにはご覧になったんですか？保健センターの職員の皆さん、佐藤さんとかはもちろん従事してたかと思うんですけども、他のスタッフの皆さんはイベント自体をご覧になったのでしょうか？</p>
事務局 (副課長補佐)	<p>私は見に行きました。</p>
池田物産	<p>それで、事務局の皆さんから見てここはこうした方がいいとか、そういった事務局の意見としても必要だと思いますね。やったはいいいけど、また同じやり方をやって、来ていたお客さんの的にかゆいところに手が届かなかつたら同じ結果になってしまいます。より良いものにするには、毎回毎回ブラッシュアップして、ここは良かったけど、ここはこうした方がいいなということをもっとつっこんで、出店した我々もそうですし、事務局の皆さんも何人かの目で実際にやっている活動を見てこれよりもここはこうした方がいいんじゃないですかとかそういうことも必要だと思います。だから、イベントを起こしてやって</p>

<p>事務局 (総課長補佐)</p>	<p>その後、次にやった時には前回こういう風なのだったねっていうような講評がないと繰り返になってしまうなと思います。実際、各出展していただいたみなさん方は、見られてどうだったですか？</p> <p>健康保健医療課の渡部です。私が見た時、ちょうど池田屋さんのところにお客様がいて、あとのところはちょっと空いている時でした。それで、後ろから池田屋さんのお話を聞いたり、体験実際に試飲されたりしている方は皆さん興味深そうに参加しているなという感じがしましたので、食育や減塩のところに興味をもってもらえたんじゃないかなという感じはいたしました。</p>
<p>池田物産</p>	<p>個人的には、実際に拝見していただくのって違いますよね。後ろで見ていただくではなく、例えばお客さんがいなかったら、ぼけっとステーションさんのところ、自分を当てはめるとどうかという体験をしていくとか、そういう形で「あっ、実際こういうことを代表者が話しているんだな」というように、企画の趣旨としては書いてありますけど細かい所まではわからないと思いますので、その辺も、熟知していただいた上で色々話を進めていった方がいいのかなと思います。ですから、うちが出しでやっている食育のメニューにもいろんなものがありますが、実際体験することによって、こういうのがあったら、他の参加者さんでそういう趣旨のものができる参加者さんをお願いするというような形で進めていった方がイベントとしてより良くなっていくのかなという感想です。</p>
<p>司会</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございました。他にご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。今、皆様から出された意見などを今後の活動に取り入れながら平成30年度は、今、お示ししました実施予定に沿って進めていきたいと思っております。このことに関しては、ご了承いただくことでよろしいでしょうか。意見のある方いらっしゃるようでしたら、挙手をお願いします。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日は今年度最後の会議となります。皆様にはコンソーシアム会議の準備会および発足会をご協力いただきまして大変ありがとうございました。来年度も引き続き地域の皆様と一体となつての取組が必要となりますのでぜひ市民の健康維持増進、疾病予防に向けた食育の推進にご協力をよろしくお願いいたします。次回の会議は5月頃を予定しておりますので、また、改めてご連絡を差し上げます。それでは以上をもちまして、食育推進コンソーシアム会議第3回会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。</p>

